

「主イエスのまなざし」

(ルカの福音書 5 章 27 節～32 節)

「この後イエスは出て行き、収税所にすわっているレビという取税人に目を留めて『わたしについて来なさい』と言われた。するとレビは、何もかも捨て、立ち上がってイエスに従った」(5:28, 29)

仲森文穂

今日のメッセージ要旨

○レビは、カペナウムの町の収税所に座って、通行税を取りたてる取税人でした。当時のユダヤで嫌われた職業の2位は羊飼いで、1位が取税人でした。ラビたちは「取税人が悔い改めるには不当な取立額プラスその5分の1を民衆に返済すればいい」と教えつつ「返済する相手が多く特定できないので結局、彼らには悔い改めの道がない」と、切り捨てていました。

○ある日、イエス様がレビを見て「わたしに従いなさい」と呼びかけられると、「彼は何もかも捨てて立ち上がり、イエスに従った」とあります。捨てる、立ち上がる、従う、この3つの動詞は人が何かを決断する時のキーワードですね。レビは嬉しかったのです。彼が盛大な宴会を催すと、イエス様はごく自然な態度でレビの宴会の客となりました。これを見て、パリサイ人や律法学者たちが「なぜ、取税人や罪人どもといっしょに飲み食いするのか」と非難しました。彼らはユダヤの伝統に従い、律法と口伝に基づいて民衆を指導していました。律法というフィルターを通せば、律法を守れる清い人間と、そうでない汚れた人間に必然的に分けられてしまいます。律法を守らない取税人は汚れた人間とされ、他者との食事、人と人との交わりからも断たれるのが常だったのです。

○これに反して、イエス様は律法のフィルターを取り払って、レビを見つめます。人々はレビのような人に会うと目をそらし、親しく語りかけることも、食事を共にすることも拒否しました。きっとレビは寂しかったのです。そんなレビをイエス様が見つめ、「わたしに従いなさい」と招かれたのです。レビはきっと待っていたのです。こんな風に接してくれる人を！ そうでないと、捨てて、立ち上がり、すぐに従うなど、咄嗟に決断できるはずがありません。

○ファリサイ人は、レビの人格すらも認めようとしなかった。だからイエス様がなぜレビのような「人でなし」と一緒に食事ができるのか、なぜ人と人としての交わりができるのか、理解できなかった。そんな彼らに、イエス様は仰いました。「わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招いて悔い改めさせるためである」と。イエス様は、人としてレビを見ます。天国で祝福にあずかることも、悔い改めの道も閉ざされた、悲しい心でいるレビを見ます。イエス様はそんなレビに、救いにあずかる天国への招待状を出してくださったのです。

○2025年が始まりました。戦争が続き、自然災害や南海トラフ地震も心配ですが、「まなざしを注いでくださる」イエス様が共におられます。この方に養われ、困難に立ち向かう勇気と力をいただきましょう。この一年、皆様方の上に主の御祝福が豊かにあふれますよう、心からお祈りしたいと思います。